

第16回火山噴火予知連絡会議事録

日 時 : 昭和54年5月12日(土) 09時30分~12時

場 所 : 気象庁第1会議室

出席者 : 永田, 横山, 高木, 下鶴, 行武, 青木, 久保寺, 加茂, 太田, 北村(科技厅), 伊藤(国土庁), 飯田(文部省), 春山, 茂木, 高橋, 末広, 渡辺, 田(気象庁), 河村, 神沼(幹事)

オブザーバー: 小野(地質調査所), 平畑(文部省), 熊谷(国立防災科学技術センター), 三宅, 久本(気象庁)

庶務: 清水, 吉留, 永福, 小宮

[議事に先だち, 永田会長から委員異動等について次のとおり紹介があった。気象庁観測部長小林寿太郎氏から末広重二氏。気象研究所長関原彊氏から小林寿太郎氏。庶務異動として火山室長大野譲氏から清水重郎氏。また近く委員依頼予定の地質調査所小野晃司氏。]

1. 第15回連絡会議事録(案)は一部字句を訂正し承認された。

2. 火山噴火予知連絡会運営要綱の一部改正について

渡辺委員から地質調査所に本連絡会委員をお願いするために要綱の改正を要する旨の説明があり, 「火山噴火予知連絡会運営要綱4-(2)の文部省の次に通商産業省(工業技術院地質調査所)を追加する」改正案が原案どおり承認された。

3. 最近の火山活動

3.1 有珠山

横山委員: 震央区域の変化, 震源分布, 上下変動, 傾斜変化, 辺長変化, 火口原の隆起, I 火口の温度推移等について。

吉留(気象庁): 地震回数, 有感回数推移

総 合 検 討

横山委員: 昨年10月以降の地震放出エネルギー・隆起率等の遅々とした減衰状態は exponential に常数項を加えた式で表した方がよいように思われる。過去の山頂噴火により大有珠・小有珠は数年~10年かかって成長したともいわれており, 今回の山頂火口原の隆起も完全に停止するのは, かなり先にのびる可能性がある。

永田会長: マグマはコンスタントに上がっており, 急速に鎮まり返る兆候は出ていない。

結 論: 前回(54.2.8)の統一見解のとおり進行しており, 差当り急変はないと思われる。今後の推移については現時点ではっきりしないが, 幸い北大と気象庁の観測施設があるので, 引き続き監視をお願いしたい。

3.2 桜 島

加茂委員: 爆発回数, 地震の発生推移

吉留(気象庁): 活動推移

結 論：昨年と比べ活動レベルはやや低下している。

3.3 樽前山

横山委員：震央分布、辺長測量結果、地震観測点増設の必要性

吉留（気象庁）：活動推移

結 論：昨年5月と本年2月を小ピークとする活動があったが、このようなプロセスを経て本格噴火に発展することもあり得るので注意深く監視を続ける必要がある。

永田会長：今後の噴火に備えるために震源をさめることが先決問題である。

3.4 硫黄島

高橋委員：地層構造探査結果

3.5 南硫黄島周辺海底火山

茂木委員：最近の火山活動等について

3.6 阿蘇山

河村委員：地磁気観測結果

3.7 その他

下鶴委員：鹿児島県北部（大口市付近）に発生した地震について。

4. 連絡会庶務報告

有珠山総合観測班が解散したので、臨時委員を依頼した3氏の解任を手続き中である（渡辺委員）。

5. 協議事項

1) 次回連絡会開催期日

10月8日（月）を予定

2) 会長代行は引き続き下鶴委員にお願いしたい（永田会長）。

3) 衛星による火山のモニタリングについて

次回連絡会で議題に取上げ検討できるよう、その準備を渡辺幹事に一任したい（永田会長）

[12:00～12:20 記者会見 気象庁記者室]